

浪江町東日本大震災から復興への足跡2018 (定点観測写真)

期 間： 2013年5月～2018年1月
作 成： 一社)南相馬除染研究所 田中節夫

観測地点略図

浪江町中心市街地区観測地点



浪江町請戸地区観測地点



浪江町中心市街地区観測地点

2013-5月 地点A 北
激震と避難の跡を記憶する激しく損壊した薬局
2013-5月 地点B・C 南
浪江町の玄関口 無人の常磐線駅前広場



2013-5月 地点C 東 (C-D中間)
駅前通り倒壊寸前の名店大室屋



2013-5月 地点D 北
倒壊した銘酒天王山の上田酒造本店



2013-5月 地点A 南
新町通りも多くの倒壊損壊家屋が目立つ



2013-5月 地点B・C 南
錆びた鉄路が続く常磐線浪江駅構内



2013-5月 地点C 東
駅前通りにも多くの損壊家屋が目立つ



2013-5月 地点D 南
交差点付近の倒壊老舗印刷店



2014-9月 地点A 南
町育ちの定住？子連れ猪が徘徊



2014-10月 地点B・C 北
雑草の繁茂する鉄路原ノ町方面を望む



2014-8月 地点C 東 (C-D中間)
名店大室屋解体、更地になる (P1大室屋写真参照)



浪江駅側から見た倒壊家屋付近

2014-10月 地点A 東
あぶくま信金前の損壊激しい喫茶店と路地



2014-10月 地点B 北
倒壊寸前の駅広場前に並ぶ店舗群



2014-10月 地点C 東 (C-D中間)
正面に浪江駅を望む新町通りの一階が潰された倒壊家屋



2014-10月 地点A 北左
年月を経て損壊の風化が更に進む薬局



2014-10月 地点B 東
駅前広場東寄りの家屋が斜め倒壊の危機



2014-12月 地点B 西
取り残された車両が残る浪江駅前広場



2015-2月 地点A 南
立ち入りを規制され無人の新町通り



2015-1月 地点CよりBを望む
劣化が進む駅前広場周辺の損壊家屋群



2015-1月 地点C 東
災害後4年目の新年を迎えた駅前通り



2015-1月 地点C
駅前自転車置き場のモニター



2015年7月 地点A 北
国道114号線と新町通り交差点付近に
新たに進入規制ゲート新設



2015-5月 地点B 西
交差点より西及び北方向の通りの店舗及び住宅は全て倒壊同等の損壊被害
従って、帰還前に解体が避けられず、駅前は大きな空間が生まれることになる



2015-3月 地点C 東・D中間
駅前通り農協スーパーの損壊が時間
経過とともに進んでいる



2016-4月 地点A 南
損壊家屋の解体準備の作業がされている



2016-5月 地点B 北(B-R114中間)
西病院前の公園の桜は人知れず満開



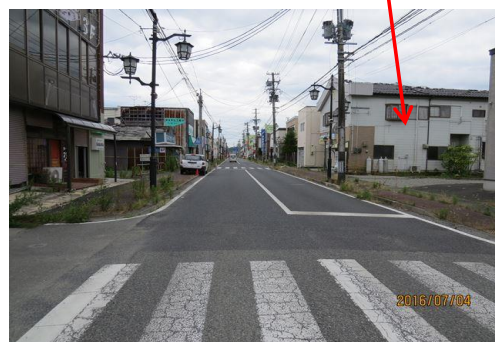
2016-4月 地点C 東
倒壊家屋もそのまま5年目の春を迎える



2016-1月 地点C
駅前自転車置き場のモニター



2016-6月 地点A 南
あぶくま信金沿いの家屋解体更地化された



2016-6月 地点B 西
駅前店舗群一部の解体準備始まる



2016-6月 地点C 東
復興工事準備か?規制ロードコーンが増加



2016-6月 地点D 北
新町通り銘酒天王山の上田酒造本店解体



2016-7月 地点A
あぶくま信金左隣の店舗修復開始



2016-7月 地点B西
奥側の家屋解体工事が本格化する



2016-7月 地点C 東(C-D中間)
農協ストアの壁面倒壊が更に進行



2016-7月 地点D 南(双葉方向)
駅前&新町通りの交差点、多くの店舗が
震災と経年劣化で倒壊寸前



2017年4月を目標に浪江町市街地を中心とした町民帰還計画が発表され、町内復興への手掛かりとなる
倒壊・損壊家屋の解体作業が、市街地各地で本格化してきた

2016-7月 地点A 南
電気工事店解体工事完了、更地化された



2016-8月 地点B 西
奥側の解体工事完了、更地化された



2016-9月 地点B 西
駅前交差点付近損壊店舗群の
解体完了、全域が更地化された



2016-9月 地点A 西
あぶくま信金営業再開
2017年4月、浪江町市街地を中心
に町民帰還が実現することに先立
ち金融機関の一つが再開された



2016-9月 地点B 東
通行が制限され、路地奥の家屋解体が
活発に行われ始めた



2016-8月 地点C 東
駅前通り復興、道路修復工事開始



2016-8月 地点C 東
駅前通り復興へ道路側溝工事



2016-10月 地点C 東(C-D中間)
駅前通り中間点より道路復旧工事
の進む浪江駅方向を望む



2016-7月 地点D 西(浪江駅方向)
浪江駅から駅前通り店舗が連なる
通りで、多くの損壊家屋が目立つ
ことから復興への家屋解体が今後
増加する



2016-7月 地点D 東(R6号方向)
国道6号線方向を望む(左角は東邦銀行)



2016-7月 地点D 北(小高方向)
新町交差点から新町通りの中心を望む



2016-9月 地点A 北
あぶくま信金の北隣り損壊
店舗群はいまだ手つかず！



2016-10月 地点B 東
家屋倒壊の恐れあり、解体着手



2016-10月 地点C 東(C-D中間)
駅前通り農協ストアの損壊荒廃が
目立ってきた



2016-10月 地点D 南(双葉方向)
震災により倒壊していた浪江印刷
所が解体更地化された



2016-10月 地点A 北
あぶくま信金の左斜め前、店舗解体更地化される



2016-11月 地点B 東
家屋解体更地化された



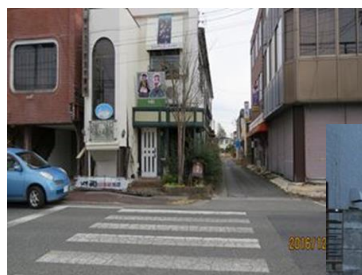
2016-11月 地点C 東
Photo8駅前通り倒壊家屋が解体
更地化された



2016-10月 地点D南(双葉方向)
浪江印刷所左隣の店舗解体が始まる



2016-11月 地点A東

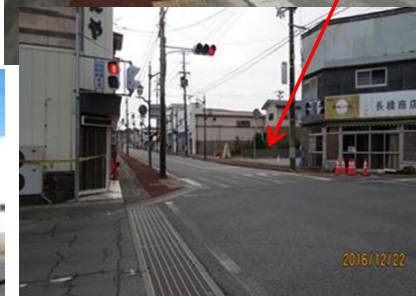


2016-12月 地点Aにある喫茶
店やあぶくま信金付近に変化
なし



2016-11 北斜め対面にあった青果
店などの家屋解体と更地化に次い
で、地点B 東の家屋解体及び更地
化により、駅前には大きな空間が
出現した
(下写真は駅前店舗群跡地)

地点A 西
来年の住民帰還に向けて、唯一営
業している金融機関あぶくま信金



2016-1月 地点A 東
路地奥の家屋解体工事開始



2016-2月 地点B・C南
町民帰還に向けて常磐線復旧工事活発化



2016-12月 地点C 東
駅前通り道路復旧修復工事



2017-1月 地点C
駅前自転車置き場のモニター



2017-5月 地点A 南
損壊住宅が解体更地化された



2017-4月 浪江駅
4/1からの住民帰還に合わせ、常磐線
仙台～浪江復旧6年ぶりに再開通



2017-3月 地点C-D
新町交差点から駅前通り道路復旧工事



2017-3月モニターは駅前花壇に移
設された
4/1表示0.276 μSv/h)



しばらくは、浪江終点の路線表示



2017-5月 地点C
常磐線開通に合わせて駅前タクシー復活
このあたり前がうれしい!!



2017-5月 地点A 北
新町通り北端の左右の店舗は全て解体待ち



2017-5月 地点D 西
交差点の長橋商店他解体更地化された



(帰還すれども賑わいの無い商店街)

2017-6月住民帰還2か月後 ある日の町内昼下がり風景

地点A 新町通り南方向

地点B 北 西病院方向

地点C 東 農協ストア解体工事始まる(黄矢印)

地点D 西 交差点(駅方向)



地点A 新町通り北R114号方向

地点B 東 郵便局通り方向

地点C 東 駅前通り全景(R6号方向)

地点D 南 交差点(双葉方向)



2017-9月 地点B-C
駅前広場周辺パノラマ展望

2017-8月 地点C 東
解体農協ストア整地工事中

2017-9月 地点D 西

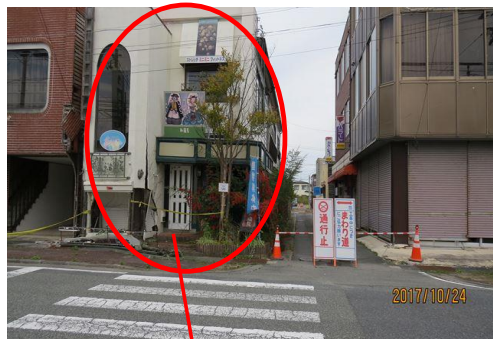


メイン道路から一步裏へ入ると、震災損壊の長期放置により解体せざる得ない家屋が多くを占めている。市街の再生復興には個人の努力だけでは及ばない現実が存在し、再生を困難にしている



地点B-Cの道路沿い家屋の大多数が解体更地化され、再興へ向けた都市再生計画プランの早期実行が待たれる

2017-10月 地点A 東
あぶくま信金前の喫茶店解体が始まる



2017-11月 地点B 東
裏通り家屋の解体が進んでいる



2017-9月 地点C 東
解体農協ストアが更地化された



2017-11月 地点D 西
時間経過とともに、解体が進むと
予測されるほど損壊が進んでいる



2017-11月 地点A 東
裏の家屋も解体され、通りの喫茶店も長い歴史
を閉じ、裏通りまで全て更地化された



2017-12月 地点B及び地点C駅前通り方向を望むパノラマ展望
駅前広場とその周辺の家屋の過半数が整理され、2018年
は駅前広場周辺の賑わい再開発が期待される !!



2017-12月 地点D 北
新町通りを望む、GSと金融機関の
営業が再開されている



2017-12月 地点A 北
最も損壊の激しかった、あぶくま信
金並びの薬局が6年9か月振りに解
体、更地化された。傷みの激しい両
隣は何時？



地点D 東(R6方向)交差点
付近では変化なし



2017-12月
地点D 南(双葉方向)交差点右
側の更地化など付近の整理が進む



2018年1月 3月には震災より8年目、帰還から2年目を迎え、本格的な復興が始まる年になる

2018年1月 新町通り(あぶくま信金付近)

地点A 南
通り 右側帯更地が増加



地点A 北
通り 左側帯解体進む



地点A 南
通り 左側帯更地が増加



地点A 北
通り 右側帯更地化進む



2018年1月 浪江駅前通り(浪江駅広場付近)

地点C 東
駅前通り 解体が進み、営業店舗なし



地点C 西
駅前広場タクシープール
駅前に人の賑わいを戻すには
あと少し時間が必要



地点C
駅前広場のモニタリ
ングポストは未稼働



2018年1月 新町通り交差点

地点D 南
双葉町方向の通り
修復準備店舗が目立つ



地点D 西
浪江駅前通り方向
更地化が最も進む



地点D 北
新町通り、震災前は十日町祭
の中心会場であった繁華街



地点D 東
駅前より国道R6に至る
通り



地点B 東 浪江郵便局通り
周辺の震災や経年放置による損壊家屋の解体が
周辺で多数あり、裏通りは特に更地化が目立つ



は主な解体現場を示す

地点B 北 西病院通り
駅前北側にあった店舗は全て解体が完了し、
再興が待たれる



解体後



浪江町請戸地区観測地点

浜通りの中核漁港として多くの家屋が請戸港市街として展開していた
2004-11/21時点



2011-3/11東日本大震災から1週間後の津波により全ての市街が流出した惨状
2011-3/18時点
グーグルアースより転載



震災より立ち入り規制があり、2014年10月より立ち入り許可を受け復興定点観測を開始

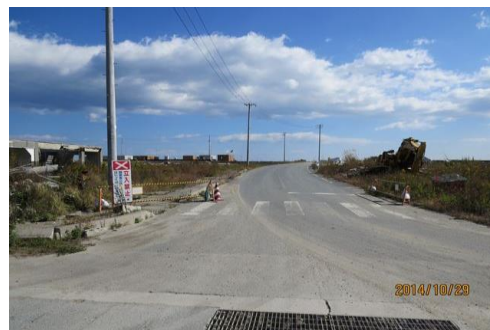
2014-10月 E地点 北

請戸川・請戸港内港方向で最も人家が密集していた地区で、遠方に残された家屋が見える



2014-10月 E地点 東

請戸外港方向で、流出港湾施設の復興、築堤の復旧工事が進む



2014-10月 E地点 南

地平線左端付近に福島第二原発が見える方向



2014-10月 E地点 西

地平線右側に震災前は見えなかった浪江町市街が確認できる



2014-11月 E地点 東北
津波に耐えてわずかに残された家々も筐体を残すだけの惨状……



2014-10月 E地点 東堤防から
直線距離で約8Km福島第一原発を望める



2013-5月 請戸橋から
海岸より約1Km離れた山側を見ると2年後も津波で流された漁船が当時のままに点々と……



2014-11月 E地点 北
請戸港堤防から約200m 耐えた家屋も
内部は全て破壊流出



2014-11月 E地点 北
どこからか流されてきた巨石残骸
が津波の脅威を……



2014-11月 E地点 東南
整理しきれない瓦礫の点在



2014-11月 E地点 西



2015-7月 E地点 北
立ち入り規制区域で流出残骸の撤去など、まだまだ津波の恐怖を物語る痕跡が各所に散在していた



2015-7月 E地点 南



2015-7月 E地点 西



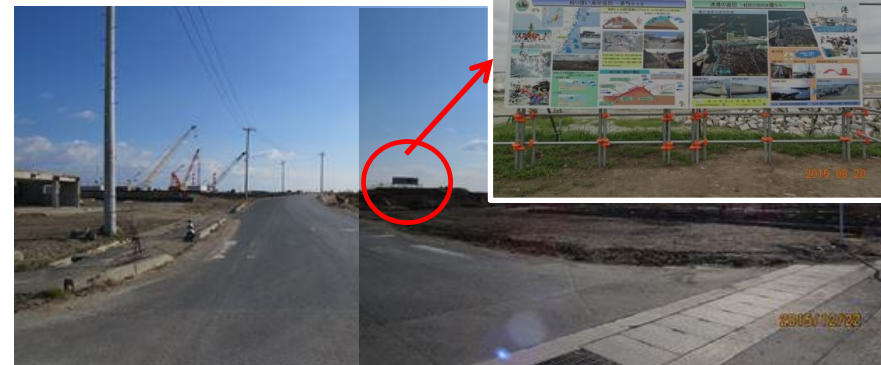
Photo1 2015-10月 E地点 北及び北東
繁殖していた雑草や津波により流されてきた大量の土砂や瓦礫を取り除き、流出した家屋の土台が確認できるところまで、夏から年末にかけて整地が完了。多くの流出家屋の土台が露出したことで震災(津波)の生々しさをあらためて感じる。

2015-10月
港湾及び堤防復旧工事が行われている

E地点 東方向 請戸外港復興工事中
復興工事広報ボード



2015-10月 E地点 南



2015-10月 E地点 西及び右端西北方向



2016-7月

E地点 東(請戸外港復旧工事)方向にあった津波被害のコンクリート建屋跡が5年余を経て撤去された

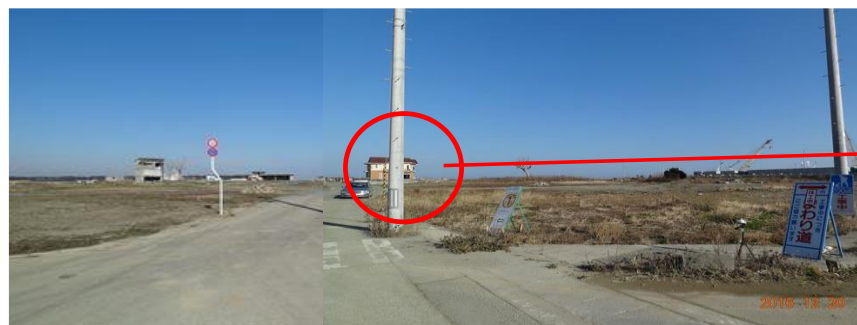


2016-12月 請戸外港復旧工事の風景



2016-10～12月
2016年10月 E地点 西北
流出住宅の土台等撤去による集積と更地化作業風景

震災から5年有余、瓦礫が撤去され、流出家屋に残されたコンクリート土台部が、この期間に全て撤去され更地化された
これで流出を免れ、廃墟化した損壊家屋以外、かつての請戸住宅市街の面影が消えた。(2015-10月のPhoto1と比較すると変化が分かる)
2016-12月 E地点 北(サケ漁で有名な請戸川および密集市街地であった請戸内港方向)



2016-12月 E地点 西(浪江町中心市街地地方で、交差点周辺は住宅地域であった)
ぼつんと残された廃墟とどこから流れてきたか、庭石が、かつての生活の跡を示している

2016-12月 E地点 東(請戸外港及び堤防復旧工事、太平洋方向)
港及び堤防などの復旧の為に、早くから整地が進んでいた方向



2016-12月 E地点 南(双葉町に至る道路で、南へ直線約8Kmの方向には
福島第一原発や、南南西には津波による被害で破壊廃墟となった請戸小学校がある)



津波に耐え流出は免れたが、外観を残すのみで破壊廃墟と化した数棟の家屋以外の敷地は、残されたコンクリート土台がすべて撤去された。
これにより広大な請戸地区旧市街地は更地化され、跡地は今後防潮堤の再構築、港湾諸施設の復興また再び悲劇を繰り返さないための、再興都市計画が推進されるスペースとなる。

廃屋周辺に更地化された広いスペースが生まれている

2017-1月 2016年更地化された請戸旧市街地全景(請戸外港及び堤防復旧工事広報ボード前より望んだパノラマ写真)
津波による被害流出物がすべて撤去され、復興への準備が整いつつあるある情景を示す請戸地区全景



2017-3月 E地点 北(請戸内港付近)
請戸内港に残された廃墟建物群の解体が始まる



2017-3月 E地点 東北(請戸外港)
浪江外港へ6年ぶりに請戸港漁船が帰還する



2017-1月



2017-4月
E地点 東北の請戸外港復旧工事



2017-9月 E地点 北
請戸旧市街地地域の一部を転用した、津波被害の軽減を図る防災林工事が始まる



2017-2月 E地点 北



2017-3月 E地点 北
最も外観をとどめていた破壊家屋の撤去が終わった



2017-10月 E地点 北
防災林工事と海岸堤防復旧工事
の対応で通行規制となる



2017-10月 E地点 東
請戸外港への通行道路を通行止
として、海岸堤防復旧工事を開始



2018年1月
震災から3月には8年目を迎え E地点から見た請戸地区の現状パノラマ写真



双葉町に至る南西方向には、現在震災瓦礫の一次仮置き場など、復興関連事業が行われているが、将来は双葉町にまたがり津波震災を後世に残す復興祈念公園が建設される(下図計画)



請戸地区の90%以上が更地化されたが、今も残る廃屋が!!震災当時を思い起こさせる



震災前は住宅区域であったが、防災林に生まれ変わる防災工事が行われている
工事西側(上写真赤丸)には復旧を待つ
広大な更地が広がる



太平洋に面した請戸外港と接続する、
外洋防波堤の築堤復旧工事及び周辺環境
整備事業を、大規模に展開している



[illegible]

震災前2004年11/21撮影
(Google Mapより転載)